

やまたらけ

YAMADARAKE

OCTOBER

No. 37

2009

写真：早川町在住の現代美術家、木村崇人さんが、町内で開催したワークショップ「木漏れ陽の傘を作ろう」。「地球と遊ぶ」がコンセプト。ギャラリーを持たずに活動する、町内在住の芸術家も多い。

芸術の秋 早川のギャラリーめぐり

秋と言えば「芸術の秋」といつても、早川で芸術なんて...と思われる方も多いのではないのでしょうか。自然豊かな早川町。実は、この自然に引き寄せられる様に多くのアーティストが、集まって来ているのです。

今号では、そんな早川町に拠点を置いて創作活動をするアーティストの方々と、そのギャラリー、作品の一部を紹介していこうと思います。

一つでも気になった作品があったら、ぜひ実際に足を運んでみてください。写真では表せない作品の輝き、そしてその輝きにも負けないアーティストの方達との出会いが待っています。

一日かけてゆっくりギャラリーを回ってみる。そんな早川の楽しみ方もお勧めです。一面に広がる山、森、木。そこからアーティストの方達は時に素材として、時にメッセージとして作品に表現しています。あなたは、ここから何を感じますか？ギャラリーを巡り終わったら一度車を停めて、森の中に足を運んでみてください。森も木も動物達も、今までとは違った表情を見せてくれるはずです。(鹿島俊洸)

三里、都川エリア



木道楽の外観



板面庵の外観



体験② 里山木材で器作り 湖上照生のウッドターニング体験

【内容】10～15センチの小皿(天然蜜蝋仕上げ)
【料金】3,000円
【時間】約1時間(午後1時～4時の間)
【日時】ご希望の日時(3日前までに要予約。作家さんの都合でご希望に添えないこともありますので、ご了承下さい。)

体験③ 金井君恵のガラスの小物作り

【内容1】透明なガラスに好きな模様を描いてオリジナルグラスを作る【料金】3,000～5,000円
【内容2】透明なガラスに好きな模様を描いてオリジナルアクセサリーを作る【料金】3,000円
【内容3】空き瓶を使ったオリジナルリサイクル(空き瓶をご持参いただき、それに模様を描いて、花瓶などへ変身させる)【料金】1,000円
【時間】どれも約1時間
【日時】ご希望の日時(1週間前までに要予約。作家さんの都合でご希望に添えないこともありますので、ご了承下さい。)



上:金井さんの作品。どこか神秘的だ。左:ギャラリーの様子。内装も夫妻で手がけた。左下:湖上さんの作品。力強さを感じる。



時間を忘れて、作品に込められたメッセージを考えてみる。ここではそんな楽しみ方をしてみよう。



作品の中にどこか違和感の残るポイントを細く交差している。

【所在地】〒409-2703 新倉 3001
【電話】0556-48-2680 ※要事前連絡
【定休日】不定休 【営業時間】8:30～17:00



スタンドグラスを三枝子さん、台座を義明さんが作った。ガラスとガラスの隙間から光が漏れる。



【所在地】〒409-2713 保 1287
【電話】0556-45-2355 ※要事前連絡
【定休日】不定休 【営業時間】10:00～16:00



上:金井さんの作品。どこか神秘的だ。左:ギャラリーの様子。内装も夫妻で手がけた。左下:湖上さんの作品。力強さを感じる。

木彫作家の湖上照生さん、ガラス造形作家の金井君恵さんご夫婦のギャラリーだ。中に入ると、ふわふわとした木の香りと共に、湖上さんの作品が目飛び込んでくる。その裏にある作品は、原始の塔、鹿、だ。『早川には動物が身近な存在で、共に生きていく』と語る湖上さんは、この作品に「自然と人間との戦い」というテーマを込めた。炎の様に燃え上がる自然の中から、人間達を伺う鹿。この深さ20cm程の穴に無限の広がり、何人をも寄せ付けな境界を感じてしまう。四季の移り変わりを体感するうちに、自然や人の生活の中から影響を受けた作品が自然と形になる。こうして生まれたからこそ、生命力に溢れているのだ。左の棚には淡い色合いのガラス細工が並んでいて、パート・ドヴエールが作り

出する細やかな色の変化と、中に浮かぶ気泡が美しい。『早川に来て作品に、色・光・質感・空気感を込めた』という事が分かった。と語る金井さんの作風の変化は、特に色・光のクリアさに表れている。『神話の世界との繋がり』という作品では、自然の中、一見静かだがその奥で蠢く動物達の存在。しかし気配でしか分からない。この半リアルな自然の存在を、不完全な山羊と言った象徴性で表現した。もう一つ見て欲しいのはそのクリアな眼と。眼とは内(自分)と外(相手)とを繋いでいる。つまりは、自分も半リアルな自然と共にある事を表現している。早川の生活の中で、実感として自然を捉えているからこそできる表現なのだ。

自然に魅せられた芸術家 木道楽(きどくろく)



「自然のゆらぎ」を、作品を通して表現したいと語る。店内を見ていると、ある作品が目が止まる。切り株をモチーフとした作品に、神々しい周縁部が取り付けられていた。一つの切り株を見て、そこに神の存在を見たのかも知れない。揺らぎながらも、燃え上がる自然の生命力、この作品からは感じている。上村さん独特の表現が見せる自然の表情を是非感じてもらいたい。



上:ギャラリーの様子。下:奈良田の土を使った泥彩。光によって、黒くも藍色にも見える。

米山氏の代名詞とも言える梅花文。

【所在地】〒409-2734 雨畑 2382
【電話】0556-45-3042 ※要事前連絡
【定休日】不定休 【営業時間】9:00～17:00

自然から生まれる夫婦の合作 板面庵(いたづらあん)



板面庵の外観

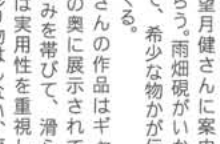


右:玉泉さんの作品。原石の肌をそのまま生かす。現在制作中の作品は、近年まれに見る良石とのこと。

山から掘り出した石を見



板面庵の外観



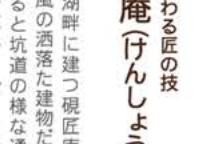
右:玉泉さんの作品。原石の肌をそのまま生かす。現在制作中の作品は、近年まれに見る良石とのこと。

山から掘り出した石を見

硯島エリア



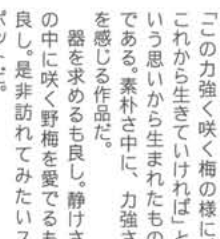
板面庵の外観



右:玉泉さんの作品。原石の肌をそのまま生かす。現在制作中の作品は、近年まれに見る良石とのこと。

山から掘り出した石を見

雨畑に咲く一輪の野梅 岳龍窯・とくり



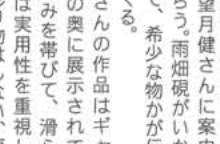
「この力強く咲く梅の様に、これから生きていければ」という思いから生まれたものである。素朴の中に、力強さを感じる作品だ。



器を求めるもよし。静けさの中に咲く野梅を愛でるもよし。是非訪れてみたいスポットだ。



右:玉泉さんの作品。原石の肌をそのまま生かす。現在制作中の作品は、近年まれに見る良石とのこと。



右:玉泉さんの作品。原石の肌をそのまま生かす。現在制作中の作品は、近年まれに見る良石とのこと。

山から掘り出した石を見

雨畑に伝わる匠の技 硯匠庵(けんしゅうあん)



て作品をイメージすると、玉泉さんの最近の作風は、石肌質感を残して削ると言う物だ。縁が薄くなるため削る際に必要となる技術と集中力が正しく、普通なら2枚から3枚分取れる硯石を使うことだわりの逸品だ。雨畑の険しい山々を連想させる豪快な作品だ。

【所在地】〒409-2734 雨畑 701-1
【電話】0556-45-2210
【定休日】火曜日 【営業時間】9:00～17:00
【入館料】一般:200円/中・高・大学生:100円/小学生以下:無料

五箇、本建エリア



南アルプスプラザの外観



能玄の館・煌知の外観



木工房「淳司」の外観

陶芸と能面の異色コンビ
能玄の館・
陶房煌知(こうち)
坂を登る。振り返ると対岸の山々の稜線が美しい。家々を見下ろす様に能玄の館と煌知はある。「雑音も無く環境が良いので、創作に専念できる」と語る久村哲生さんは能面師。今回は面の実用性の高さに驚かされた。舞う事を想定し、左右非対称に作る事で入退場時の表情を変えている。汗の流れをも計算して作られ、色遣いも役者の肌の色に合わせている。細部に光る技を見て

娘の真代さんは陶芸家。「陶芸は生き物。2つと同じ形は出来ないし、同じ材料でも色合いが変わる」と語るその作品は、うねりのあるラインと、錆にも似た色合いを見せる。ひと際目を引くのが、流木の取手が付いた蓋物だ。この風合い



左が能面師の哲生さん。右が娘さんで陶芸家の真代さん。



【所在地】〒409-2727 薬袋 486-1
【電話】0556-45-3107 ※要事前連絡
【定休日】土曜日【営業時間】10:00～17:00

「煌きを知る」自然の中にある輝きと出会い、作品に表現する。そんな思いがこの陶房の名前に込められているのかもしれない。

は、形を作る段階で質感を作り、釉薬で色を出す。焼き締めを織り交ぜた物もあって、そのコントラストがまた面白い。しかし、何と言っても決め手は取手に付けられた流木。枝との出会いで全てが決まると言う程、表情が全く変わってしまう。



上の能面は、豊臣秀吉が所蔵していた雪・月・花のうち「月」の面の写し。左の陶器は取手が流木。



体験④ 久村真代の陶芸教室

【内容】2色の粘土を使って顔のお皿作り
【料金】大人 3,200円・子ども 2,500円
【時間】約1時間半
【日時】ご希望の日時(1週間前までに要予約。作家さんの都合でご希望に添えないこともありますので、ご了承下さい。)



依田さん作の「なつめ」。柿がモチーフとなっている。

南アルプスプラザ

まずはここでギャラリー選び
ここ南アルプスプラザでは、町内の多くのアーティストの作品を展示販売している。本誌で紹介したギャラリーの他にも、写真家の深沢正春さん、望月賀子夫さんによる自然を題材とした絵葉書、工房 HANZOU の「やまぼっこ」、家具職人の芳野博之さんによる作品も見ることができる。



工房 HANZOU の「やまぼっこ」



【所在地】〒409-2732 高住 650 【電話】0556-45-2600
【定休日】水曜日(冬期は日曜) 【営業時間】9:00～17:00

木工房「淳司」

赤沢。急な石畳を登って行くと、見えてくるのが依田修さんの木工房「淳司」だ。訪れた時、依田さんはちょうど工場作業中だった。中に入っていくと、機械の音と木の香りが立ち込める。「自然の木を自然のまま使うと、皆大事に使ってくれる」と語る依田さんは、国産天然木の一枚板しか使わない。粘りがある日本の木は、折れたりヒビが入ったりしにくいとの事。また、木も種類によって木目が違い、同じ作品でも全く表情を変えてしまうから面白い。そこに漆を塗り分けて、

色合いを変化させていく。ギャラリーを眺めていると、可愛らしい柿をモチーフとした「なつめ」に目が止まった。近くになつていった柿をモチーフに作ったと言うこの「なつめ」一つをとっても、彫り物、薄い端正な口と、節の部分を使った木目の柄と、依田さんの技の広さには驚かされる。赤沢に足を伸ばした際は、ぜひこのギャラリーに立ち寄ってもらいたい。



体験⑤ 依田修の木工の第一歩

【内容1】折りたたみテーブル1つ+折りたたみイス2脚
【料金】11,000円【時間】約半日
【内容2】巣箱1つ 【料金】4,000円【時間】約3時間
【内容3】小さいイス1脚 【料金】3,500円【時間】約3時間
※いずれも人によっては制作時間が前後します。
【日時】1週間前までに要予約。作家さんの都合でご希望に添えないこともありますので、ご了承下さい。

体験①～⑥の申込は「やまだらけ編集部」まで
【電話】0556-45-2101 【Eメール】tour@joryuken.net

【所在地】〒409-2733 赤沢 259
【電話】0556-45-2577【定休日】不定休
【営業時間】10:00～17:00

奈良田うっしー池の茶屋峠

増穂町平林青柳

池の茶屋峠(いけのちゃやとうげ)

国道52号線の増穂町青柳から平林地区を抜け、丸山林道に入る。標高1647mの池の茶屋峠を越え、奈良田まで続く長い林道だ。

林道が始まる辺りはスギやヒノキの植林地が続いていたが、進むにつれ、樺類やカラマツの木が目立ってくる。天気がよければ富士山も見られる。1時間ちょっとで峠に着いた。



周辺を見渡すと、木立の間に池を見つけた。「ぬた池」と呼ばれ、かつてはほとりにお茶屋があったという。奈良田と増穂の

人々が、「荷替(にがい)」と呼ばれる物々交換をしていた場所だ。

奈良田の人が書いた昭和12年の日記によると、家族や友人と連れ立って下駄を背負って上り、増穂の商店が雇った強力(ごうりき)から米・麦・塩などを入手している。荷替の光景はどんなだったのかと、想像を掻き立てられる。峠から20〜30分車を走らせる



峠より増穂町側では、富士山を見ることができる。(撮影：川口仁)

良田集落のすぐ上まで来ていた。車を止めて、下を眺める。奈良田橋や奈良田第一発電所が見えた。「ああ、やっと下りてきたー」荷替の苦労とは比べ物にならないが、目指す村が見えたときのホッとした気持ちを共有できた気がした。(柴田彩子)



写真上：峠付近にある「ぬた池」。昔はコイやフナが捕れたらしい。荷替の際のささやかな楽しみだったのだろう。
写真右上：池の茶屋峠付近の紅葉。もみじの赤、カラマツの黄色が映える。(撮影：川口通代)
写真右下：町境に立つ看板。ここは増穂町。峠と町の境が違うのは珍しい。



※丸山林道は、未舗装部分があり、舗装部分でも路面状態の悪いところがありますので通行には十分注意してください。また、冬季閉鎖期間が設けられておりますので、必ず事前にご確認ください。平成21年9月末現在、峠付近で工事を行っており、丸山支線・林道池の茶屋峠へ迂回することになります。(峠は通行できます。)

早川旬の直送便

1 香り、歯ごたえ、味、三拍子そろった秋の味覚「早川きのご園のきのこ3種詰合せ」

秋の味覚として外せないきのこ。早川きのご園が丹精こめて育てた自然栽培きのこのご紹介です。クリタケはきのこの汁や炊き込みご飯、バター炒めなど。ヒラタケは何にでも合う万能選手。椎茸は、肉厚でぷりっとした食感がたまりません。

価格/通常 2,500 円 + 送料 740 円
会員 2,250 円 (10%引き) + 送料 740 円
内容/椎茸、クリタケ、ヒラタケ 3 種で約 1 kg
締切/ 11 月 4 日 (水)
※10 月下旬より注文順に発送



2 大自然が育んだ芳醇な香り希少なニホンミツバチの「山蜜」

玉屋養蜂場の山蜜は、赤沢集落を中心に周辺の山々に咲く花が蜜源です。舌触りはまるやか、コクがあるのに後味はすっきりで、花の香りが存分に味わえます。数量 20 個の限定販売です。お見逃しなく。

価格/通常 3,000 円 + 送料 740 円
会員 2,700 円 (10%引き) + 送料 740 円
内容/ 250g
締切/ 11 月 24 日 (火) ※11 月下旬より注文順に発送



3 お正月に食べられる早川町の縁起物大島の島根芋(とうねいも)

島根芋は、その昔「唐の芋」と呼ばれていた里芋の一種で、京野菜として有名な海老芋の仲間です。普通の里芋よりほくほくですが、粘りが強くて味が濃く、そのおいしさは海老芋に匹敵します。大島集落では、お正月に縁起物として食べ継がれ、今も無農薬で大事に育てられています。

価格/通常 1,800 円 + 送料 740 円
会員 1,620 円 (10%引き) + 送料 740 円
内容/島根芋(親芋と小芋) 2 kg + 芋茎 25g
締切/ 11 月 4 日 (水)
※10 月下旬以降、注文順に発送



■注文・お問い合わせは■
「やまだらけ編集部」まで

【電話】0556-45-2101 (9:00~19:00)
【ファクス】0556-45-2268
【メール】shop@joryuken.net

いずれも、注文者氏名、住所、電話番号、お送り先氏名、住所、電話番号、商品名、数量をご連絡下さい。ファックス、メールでお申込の場合、折り返しご連絡いたします。3日経っても連絡がない場合は、お手数ですが電話でお問合せください。支払いは、商品と一緒に請求書をお送りしますので、指定の金融機関へお振込みください。

※会員とは、早川サポーターズクラブ、及び NPO 法人日本上流文化園研究所の会員のことです。

ほのかな甘さと自然のおいしさ きっぱし

ちょっと寒くなってきた頃を作る、保存食のひとつの「きっぱし」。漢字では「切り干し」と書き、大根を思い浮かべる人も多いかと思いますが、サツマイモを切って干したものです。素朴で自然な甘さとねちちとした歯ごたえが、一度食べるとやみつき。甘いものの貴重なその昔、子ども達は大喜びしたでしょうね。

■材料…サツマイモ 好きなだけ

■作り方



- ①さつま芋の皮をむく ②竹串がすっと通るまで蒸す(20〜30分) ③粗熱をとり、風通しのいい天日に干す



- ④半日干したら5 mm程度の厚さにスライスする ⑤再び風通しのいい天日に干す

- ⑥3日程干せばできあがり(夜は室内に入れる)※固ければ固いほど持ちがいいので、好みでもっと干してもよし。



おまけレシピ

げんこつ飴

昔は、サツマイモを蒸した残り汁が黒くとしる程、たくさんのきっぱしを作りました。その残り汁を煮詰めて、きな粉を加えて団子状に丸めたのがげんこつ飴。つつい捨てちゃう残り汁も無駄にしない先人の知恵ですね。ちなみに、今回は、残り汁が黒くとしる程たくさんのサツマイモを蒸さなかったため、砂糖を加えて作りました。



- ①残り汁を煮詰める。
②煮詰めたところにきなこを加えて混ぜる。団子に丸められるくらいの固さを目安にきなこの量を調整して下さい。
③少し冷めたら、好きな大きさに丸める。とっておかず、すぐ食べましょう。



豪華賞品？が当たる やまだらけクイズ！15

問：今回ご紹介したギャラリーの中で、唯一横文字なのが「ギャラリーオゴン」。さて、その「オゴン」という名前の由来は、つぎのどちらでしょう。

- 答 1, ギャラリーの裏山でかつて金山だった「大金山」からとった。
2, アフリカの民話に出てくる妖精の名前「OGON」からとった。

正解者の中から抽選で2名様に、今回登場した芸術家の作品をプレゼント。何が届くかは楽しみに！

前回のクイズの正解は、2の「東京電力早川第一発電所」でした。抽選の結果、望月等さん(平塚市)、秋山正仁さん(多摩市)、望月治さん(福島県)の3名が当選しました。おめでとうございます！

応募総数 15 票のうち、5 票が正解でした。

読者の声

- 黒光りする水圧鉄管。水力発電にはなくてはならないもの。良く撮れてます。山を貫く導水管、昔の人は大したもんだ。良く掘ったね。見るたび聞きたび、いつも感心します。(福島県富岡町 M さん)
- 早川と電源開発の歴史がとても良かった。早川にこんなに多くの発電所があることを全然知りませんでした。最後まで良く読みました。(匿名希望さん)
- 町全体がいわば水力発電所になっていることがよくわかった。この大切な資源が、町にどれだけ還元されているのか、気になった。重要なテーマなので、また別の角度から取り上げてほしい。(匿名希望さん)

編集部：少々硬めの話でしたが、最後まで

読んで下さりありがとうございました。「町全体が発電所」という言葉は、インパクトがありますね。確かにその通りです！

■NEXT やまだらけ

38号特集(12月上旬お届け)

「早川の動物図鑑 1」

南アルプスの山々に囲まれた早川町。まさに「やまだらけ」の町です。でも、早川町に訪れたことはあっても、その山深くに入っていることがある人は意外と少ないのでは。

次号では、そんな早川町の山に棲む動物たちを紹介します。さて、早川の山の中で、どんな動物がどんな営みを繰り広げているのでしょうか。楽しみに！

作品の背景を抑って自分なりに色々なストーリーを想像する。これが芸術鑑賞の醍醐味の一つなのだと思います。普段の美術館や展覧会を流す感覚と違い、今回の取材では自分の頭と感覚をフル回転させて作品の前に立つ。そんな贅沢な時間を過ごす事ができました。そして、これ程個性豊かな人達を包容してしまう早川の自然の懐の深さに改めて驚かされる取材になりました。

山を覗けば宝の山
やまだらけ

発行元/フィールドミュージアム運営委員会
住所/山梨県南巨摩郡早川町薬袋430 〒409-2727
電話/0556-45-2160 ファクシミリ/0556-45-2268
ホームページ/http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/fm/